

大転向

老いが変わる

◆4◆

お年寄りと赤ちゃんが触れ合う場をつくる山本文子さん(左)＝高松市の「いのちの応援舎」

香川県高松市。特定非営利活動法人(NPO法人)「いのちの応援舎」で、理事長の山本文子さん(65歳)が赤ちゃんを抱いた腕をお年緒の施設では、双方が寄りに差し出した。「みんな笑顔になるんです」。このため、子育てを支援する「おやこひろば」は手は最初は遠慮がち。二階、入浴などを含む高齢者向けサービスは、一階でと、適度な距離で、「病院おこし」の中心メンバーとなり、

施設の設立は2000年。病院や看護学校に勤めた後、大手メーカー勤務だった夫の転勤で一九七三年に香川に落ちと赤ちゃんがずっと一緒にいた。

■笑いと泣かせ

勤務先の病院の存続が危ぶまれたことから、持ち前のエネルギーで「病院おこし」の「介護予防」が導入された。予防の一環である器具を使った筋力トレーニングは「高齢者には危険」との懸念も招いた。厚生労働省の研究会などで、筋トレ導入を唱えた一人が東京都健康長寿医療センター(旧・東京都老人総合研究所)の医学博士大渕修一さん(四四)。

触れ合う「命」支える

筋トレで生活支援



けすけにしゃべるが、き始め、三以前の目標上品そうな婦人から笑物を回つていすに座るまでの動きが示されると、人助けかなあとうる。「つ並んだ一方は、足腰が衰えていたころの画像で、ゴールまで十四秒。もう一方は数秒。効果は明らかだ。

■維持でない

介護保険制度の発足は2000年。六年後、データでは「向上」が示されている。大渕さんは、介護予防の普及は「维持」するのが精いつぱいとされていたが、『维持』するのに精いつぱいとされていていたが、データでは「向上」が示されている。大渕さんは、介護予防の普及は「维持」するのに精いつぱいとされていていたが、データでは「向上」が示され

たたちが生まれた時に染め、時にヒヨウ柄に染め、時に赤い服。「ど派手はつた。

都内の区民センタービスを経験した武智一。大渕さんがパソコンで動画を示すと、集まつた約二百人の高齢者から一齊に「ワーッ」という驚きの声が上がった。

動画は筋トレ「前」、「後」の歩行能力の比較。高齢の女性が、いいて通っています」。

在は施設のボランティアとしてデイケアを手伝うまで元気になつた。「三十分かけて歩

助産師の山本さんは、農地や住宅に囲まれた一角で友人とともに助産院を運営している。同じ建物で高齢者のデイサービスも提供。「赤ちゃんと触れ合うことで、お年寄りに生きるエネルギーが伝わる」。狙いは、誕生から老いまでの「いのちの応援舎」で、理事長の山本文子さん(65歳)が赤ちゃんを抱いた腕をお年緒の施設では、双方が寄りに差し出した。「みんな笑顔になるんです」。このため、子育てを支援する「おやこひろば」は手は最初は遠慮がち。二階、入浴などを含む高齢者向けサービスは、一階でと、適度な距離で、「病院おこし」の「介護予防」が導入された。

勤務先の病院の存続が危ぶまれたことから、持ち前のエネルギーで「病院おこし」の「介護予防」が導入された。予防の一環である器具を使った筋力トレーニングは「高齢者には危険」との懸念も招いた。厚生労働省の研究会などで、筋トレ導入を唱えた一人が東京都健康長寿医療センター(旧・東京都老人総合研究所)の医学博士大渕修一さん(四四)。

妊婦エアロビクスなど高知県出身の山本さんは、「遠くに行ってごろから、主に高校生で盛り上げた。八六年は泣いたんや」。笑いの赤い服。「ど派手はつた。

最近は、高齢者に「みたい」と北海道で助のための性教育の要請を呼び、一時は全国で講演を行つた。年間二百五十回の講演、語る講演も多い。「あすから立ち上がり歩笑顔で語る。